

社外取締役メッセージ

長年にわたる企業経営の
経験を活かし、グローバル
企業としての成長に貢献
していきます。



社外取締役

田村 彰

1970年4月 日本銀行入行
1978年6月 大蔵省 国際金融局課長補佐
1998年1月 日本銀行 電算情報局長
1998年4月 同行システム情報局長
2001年6月 総合警備保障株式会社 常務取締役
2008年4月 同社代表取締役専務執行役員
2011年7月 株式会社おきぎん経済研究所 アドバイザー(現任)
2012年4月 新潟総合警備保障株式会社 顧問(現任)
2015年6月 当社取締役就任(現任)

企業経営の経験を活かして

私は長年の日本銀行勤務を経て、さまざまな分野の民間企業で経営や事業運営に関わってきました。

加賀電子とは民間企業に移った当時から接点があり、その頃社長だった塚本会長と交流を重ねるなかで「長年の経営経験を当社の経営に活かしてほしい」との申し出をいただき、2015年6月に社外取締役に就任しました。私は金融をはじめ、人事政策や営業全般、危機管理などの分野で経験を積んできましたので、当社においてはそれらの知見やノウハウを活かして経営に対する監督と助言を行っています。

取締役会の実効性を高めるために

取締役の役割は「マネジメント」と「モニタリング」であり、経営の方向性が正しいかをチェックするとともに、リスクを適切に管理することにあると認識しています。

当社の取締役会では、会長、社長はもとより、メンバーそれぞれが自由闊達な議論、意見表明を行っています。議案は、

つねに「攻め」と「守り」、すなわち機会・リスクの両面から議論されており、上程案がそのまま承認されるとは限りません。その意味で、取締役会は決して「スリーピングボード」ではありません。

一般に、企業においては、早期に対処しないがために後で経営に関わる問題になりかねない小さなトラブルが日々発生します。当社では、問題を未然に防ぐ仕組みが整備されていますが、万一大きな問題が起きた場合は、それがなぜ起こったのか、原因はシステムの問題か、技術の問題か、適切に再発防止策は講じられているかといった点を取締役会や経営会議で徹底的に確認しています。また、財務・非財務両面のリスクについても、社外取締役と社外監査役がそれぞれの経験をもとに意見を述べるなど、社内の議論だけでは欠けがちな観点も含めて多面的に議論することでリスクの最小化を図っています。

このように、当社の取締役会は私たち社外の意見を積極的に取り入れて、適切に運営されていると思います。ただし、

今後の成長を考えると、ボードメンバーの数は適正規模を保ちつつ、ジェンダーや国際性などの多様性を一層高め、より事業戦略を踏まえた構成としていくことも必要だと考えています。

実効性向上の基盤となる情報提供

私は当社グループが目指す方向へ向かうよう、トップが示すビジョンを踏まえて業務運営の面でも意見を述べていますが、その前提になるのは情報提供です。これは監督においても、助言においても必要です。当社の場合、取締役会開催の前日までに議案説明がなされ、会社や事業、商品・サービスを理解するのに必要な情報も共有されています。更に、その際に出した意見や質問は、必ず社内の所管部門へ伝えられ、取締役会で質問などへの回答を受ける時間が設けられています。

加えて、私は取締役会の前後に開かれる経営会議や投資委員会にも出席し、当社グループの現況についての理解を深めています。また、定期的に事業の現場を訪れ、一般の社員とコミュニケーションをとるようにしています。

こうした機会は、各部門の施策や取り組みを理解する機会となっているだけでなく、例えば若い社員たちがどのような心構えで仕事をしているのかを知り、私の経験や考え方を伝える貴重な場にもなっています。このように行動半径を広げることで、担当者からの説明・報告やペーパー資料だけでは見えないことも見えてきますし、トップの考え方がグループ内にどこまで浸透しているのかを実感することができます。



次代を担うリーダーの育成を

当社グループは生い立ちに特徴があります。塚本会長が約50年前に文字どおりゼロの状態から創業し、強い思いと猛烈な努力で日本から海外へと事業を成長させ、今日の地位を得るに至っています。会長は、大局観、先見性、方向感覚にも優れ、カリスマ性を持たれていますが、実は気配りの人であり、人の意見にもじっくり耳を傾ける人です。決してワンマン経営者ではありません。社長を中心とした執行部に任せるべきことは任せ、持続的な成長を目指しています。ただし、当社グループの10年先、20年先を見据えると、後継人材・幹部候補者を育成するための基盤は更に固めていく必要があります。次世代が、愛社精神と事業意欲を受け継ぎ、責任感を持って経営を担い、成長を実現していかなければなりません。それに関連したさまざまなサポートも私のミッションと考え、社外取締役として適切に助言機能を果たしていこうと思います。

加賀イズムの浸透と企業成長に向けて

当社の理念をまとめた「加賀イズム」という小冊子に「TAXAN(たくさん)努力し、TAXAN儲けて、TAXAN幸せになる」という言葉が載せられています。当社が「すべてはお客様のために」という考え方を貫くことは、エレクトロニクスの更なる活用・発展につながることであり、それはとりもなおさず、お客様のため、会社のため、自分のため、ひいては世の中のためになると確信しています。そして、そのためには社員一人ひとりが、お客様に感謝する心を持ち、ニーズに応える新たな価値を提供し続けていくことが重要です。

自身の経験から仕事には大小さまざまな障壁がありますが、それを乗り越えた時の喜びや達成感は大きく、しかもそれは自己成長のみならず、仲間やチームの、また会社全体の成長につながっていきます。こうしたことをグループの社員に積極的に伝え、これからも当社グループの成長を支援していきたいと考えています。